

第8回 甲賀市小中学校教育のあり方審議会 議事概要

1. 日 時：令和4年9月26日(月) 14時30分～16時00分

2. 場 所：甲賀市役所4階 教育委員会室

3. 出席者：〔委員8名〕(敬称略)

狩野秀樹、伊藤孝子、中西三夫、山田昭、池田静香、前川志津子、青木秀樹、
八木正隆

※欠席：中野和彦

〔事務局(市)〕

学校教育課 村地次長 松村参事

教育総務課 田原課長 田中室長補佐

〔傍聴者〕

0名

4. 内容

開会

市民憲章唱和

1. あいさつ

会長

皆さんこんにちは。

先日、甲賀市に台風が来て、たくさん雨が降って皆さん大変な思いをされたことと思います。

さて、今日第8回甲賀市小中学校教育のあり方審議会委員の皆さんのお手元に小・中学校教育についてのアンケート調査用紙があると思いますが、もうすでにアンケートを実施していただいている学校も多くございます。全4項目について子どもたちにアンケートを行っています。

1つ目の項目については、1つ選びますが、残りの項目は当てはまるものすべてを選ぶ方法で行っています。1つを選ぶことは子どもも悩みますので、当てはまるものをすべて選ぶ方法で子どもたちに聞いています。子どもたちは、こんな思いを持っている。大きい学校、小さい学校、地域別に子どもたちの思いを踏まえながらこの審議会のまとめへとつないでいきたいと考えています。

次回の10月にはアンケートの集計を基に委員の皆様と意見交換を行っていきたいと思います。では今日一日よろしく申し上げます。

事務局

ありがとうございました。

それでは協議に先立ちまして、本日の配付資料の確認をお願いしたいと思います。

まず、次第、会議の概要報告については、資料1です。

また、資料2は第7回小中学校教育のあり方審議会の議事概要です。

5, 6年生の教科担任制スタートの資料、小学校中学校 ICT の資料です。教育についてのアンケート調査用紙をお配りさせていただいております。配布資料に不足はございませんでしょうか。

本日、〇〇委員さんが欠席ですので、ご報告をさせていただきます。

この後、次第に沿いまして説明させていただきます。事務局の方から資料説明をさせていただき、その後にそれぞれの項目でご意見賜りたいと考えています。

最後に全体を振り返って意見交換をお願いしたいと思います。

それでは以降につきましては設置規則の第5条第2項の規定によりまして、議事の進行を会長をお願いしたいと思います。

よろしく願いいたします。

会長

それでは次第により会議を進めます。まず次第2、会議の概要報告、議事概要についてです。

それでは事務局お願いします。

事務局

はい。それでは会議の概要報告についてご説明させていただきます。

資料1をご覧ください。

- 1、会議の名称は第7回甲賀市小中学校教育のあり方審議会
- 2、開催日時は令和4年8月9日火曜日14時30分から15時50分。
- 3、開催場所は、甲賀市役所4階教育委員会室です。
- 4、議題は、会議の概要報告、議事概要について、今後の教育づくりについて意見交換です。
- 5、公開または非公開の別は公開です。
- 6、出席者は、7名欠席2名と事務局職員です。
- 7、傍聴者数は、1名です。
- 8、会議の資料は、会議の概要報告、議事概要です。
- 9、議事の結果概要は、会議の概要報告、議事概要について事務局より説明させていただきました。今後の教育環境づくりについて意見交換をしていただきました。
- 10、その他はございません。

資料2をご覧ください。

第7回甲賀市小中学校教育のあり方審議会議事概要です。

会議の発言内容を簡略にまとめ、議事の発言内容の記録欄には委員のみの表記とさせていただきます。

以上、説明とさせていただきます。

会長

はい、ありがとうございます。

今ご説明があったことにつきましてご意見ご質問はございますか。

よろしいでしょうか。無いようでしたら甲賀市附属機関の会議の公開等に関する指針第8条に基づいて市のホームページに掲載させていただきます。

続きまして、次第3、小学校教科担任制アンケート結果について事務局より説明をお願いします。

事務局

それでは、小学校教科担任制アンケート結果について説明させていただきます。先ず5、6年生教科担任制スタートという資料と貴生川小学校で行われましたアンケート結果2枚、一学期と後期についてご説明させていただきます。

令和4年度の本格導入に向けて、貴生川小学校が昨年度1年間先駆けて実施したことについて、お話をさせていただきます。

多くの教職員が子どもを知り、多角的な理解に努めるようにしたこと、また子どもはいろいろな先生に相談がしやすくなることの2点が主な実施理由としてうたわれております。他に、中学校では教科担任制を敷いていますので中学校へのスムーズな移行を目指します。

また、教職員の立場からしてみれば、働き方改革につながります。教師が教科担任制導入により空いた時間にいろいろな子どもと向き合う時間が確保できます。いろいろな子どもについて考えることができる、そういう時間が生み出されることがメリットだと感じております。

昨年度は貴生川小学校でのみ行われました。今年大部分の小学校が教科担任制を行いました。その中で貴生川小学校以外の小学校は一部の教科が教科担任制を行っています。対象が5、6年生であることは変わりません。貴生川小学校では全教科、教科担任制を目指して取り組みました。今年から教科担任制が始めた学校は、2教科、3教科に限定した対応をとらせていただいております。

現在のところ、教科は主に理科、算数と体育です。これは国が進めているモデルとなる教科ですが、その他に、社会科や書写があります。その教科も教科担任制を敷いている学校もございます。

本市では21校小学校がありますが、県の常勤の加配をいただいているのは7校、非常勤の加配をいただいているのは9校、後の5校はまだ教科担任制を行っていません。

それでは、アンケート結果をご覧ください。

まず一学期ですが、いくつか項目があって児童と保護者に分かれています。

赤と青は肯定的なものです。赤が「そう思う」、青が「とてもそう思う」。また、オレンジと緑については、「あまりそう思っていない」、また「そう思わない」で、赤、青と比較

して見ていただければ分かりやすいと思います。

まず子どもの結果を見ますと、「授業にやる気を持って臨んでいる」が約90%近くあります。

「授業がよくわかる」、これも約90%。

「1つ1つの授業に気持ちの切り換えをして臨んでいる」が約80%を少し超えるぐらいです。

「学習や学校生活のことで相談できる先生が増えた」が約70%近くいます。

教科担任制始まって肯定的な考えとして子どもたちは捉えていると思っております。保護者の結果を見ますと、「意欲的に学習に取り組んでいる」が約80%。「学習のことで子どもから話をするが増えた」が約50%ぐらいです。

昨年度に比べて増えたということですので、50%でも多いのではないかなと思っております。

「授業の切り換えにメリハリがついて中学校への移行がスムーズになった」は約60%を超えています。「様々な先生に関わってもらえている」が約95%です。

教科担任制について、ほぼ思ったような結果が出ているのではないかと思います。

後期の結果を見なすと若干慣れてきたのか、もちろん肯定的な意見が多いのですが、高い数値で出ていると思っております。

以上、教科担任制についての説明とさせていただきます。

会長

まず教科担任制についてご質問はございませんか。
ありませんか。ではご意見をどうぞ。

委員

貴生川小学校で先進的に取り組んでおられますが、全教科担任制についてももう少し詳しく説明をお願いします。

事務局

貴生川小学校は5年も6年も3クラスずつあります。

教員は、合計6名必要です。県から加配をいただいた教員とそれだけでは足りませんので、市からも補充をしています。例えば6人のうち、1人が5、6年生の算数を持ちます。1人は体育を持ちます。道徳、総合的な学習以外は教科担任制で行います。

委員

教科担任をされている先生をどうやって選ばれているのですか。

事務局

十分な話し合いのもとに選ばれていると聞いています。県の加配教員の教科を決めてから、各担任を決めたと聞いております。

委員

確かに教科担任制で今の貴生川小学校では、小学校免許だけでなく専門的な中学校免許を持っている方が多いのではないかなと思います。

実際の小学校で6年生を担当している者が教科を持つときには中学校免許関係を考慮して配属されているのか、今までの小学校の経験でのことを踏まえて配属されているのか、その辺について教えてください。アンケート結果で、前期と後期で子どもの青色の「とてもそう思う」の青色が減って赤色が増えています。貴生川学校での分析結果はありますか。

事務局

まず1つ目のご質問ですが、例えば、図画工作や音楽は、中学校で教えておられた先生と聞いております。そういう方もいらっしゃると思いますが、例えば、自分はこれがやりたい、専門的に学んでいきたいという部分もあるかと思っております。

このアンケート結果の分析は、ございませんが、子どもたちが目新しさに慣れてきたのではないかと考えております。以上です。

会長

〇〇委員、保護者の立場から見てどうですか。

委員

授業の進度が担任の先生によって違うとか、親から見ていると、1年生の授業でも思ったりする場面がありますので教科担任制は良いなあと思います。

でも、先生の人数も必要なもので、小規模な学校では厳しいのではないかと思ったりします。

親の立場としては、教科担任制はうれしいです。

会長

親の立場としては、授業の進度は、隣の組はここまで授業が進んでいるのにこの組はまだこんなところを授業でやっていると思ったりするということですね。

委員

とてもそう思いますね。

会長

学期の最後にテストがたくさん返ってきたということもありますね。

〇〇委員いかがですか。

委員

アンケート結果を見て感じたのは、教科担任制と教科担任制ではない場合の比較が出来ていないと思います。

例えば、勉強にやる気を持って臨んでいる子どもは、教科担任制でなくてもいると思います。

だから、例えばこう変わったから、勉強にやる気が持てるとか、勉強にやる気のない子が教科担任制になったからやる気を持って集中してできるとか、そういうのが見えるのがあったら良いと思います。子どもは、目新しく専門的なことを教えてもらえると喜んでくれるのだと思います。前期と後期とこの結果として見えるように出したほうが良いと思います。

もう1つは、勉強にやる気がある子はやる気がある、やる気のない子はどうかを知りたいと思います。

確かに授業がわかるというのは、専門的なことを教えてもらって、授業がよくわかるというのは理解できます。

授業が分からない子に対して、授業をどのように工夫されているのかを知りたいと思います。

会長

なかなかこの気持ちをアンケートの答えによる数値で比較することは難しい。

勉強をよく頑張る子は結構謙虚だと思います。

数値で1学期に比べてできるようになったことが分かれば、もっと実証できると思います。

ただ子どもたちの気持ちにもやっぱり慣れている部分もあるかもしれません。〇〇委員どうですか。

委員

先ほど先生方の話で働き方改革について子どもへの関わりという意味で余暇があるのは良かったと思いますが、保護者のアンケートの中に「様々な先生に関わってもらっている」ということですが、確かに教科担任制ですので今までの担任がほとんどの教科を持つのは違って、様々な先生に関わってもらっているのは確かですが、その中身の良さ、その子どもにとって、例えば何か悩み事があったり、具体的にいろんな思いを持っていて、でも他の先生に関わることで、今までとの中身の違いが知りたいなと思います。

もう1つは、働き方改革と言われていますが、子どもとの関わりの中身の良さはあると思いますが、実際担任の先生たちにとって特に負担感は、どうなのだろうか。

確かに持つ教科が減れば教材研究の時間は減りますが、そこはどのような思いをもっておられるのかなと思いました。

会長

アンケート結果は、ここは子どもと保護者しかありませんので他校から貴生川小学校に来られて、高学年を持たれた教員が教科担任制でないところから来て、こんなところは良かったというのをまた聞いていただくと良いと思います。

他校は、どうですか。一部が教科担任制というのは従来通りですね。

事務局

6年生、5年生の担任が家庭科や音楽の自分の授業を他の先生に受け持ってもらおう感じ
です。

会長

低学年の先生が他の先生の授業に行くことは甲賀市では今でもありますか。低学年の先生の実数が少ないでしょう。低学年の先生が例えば家庭科の授業を受け持つなどありませんか。〇〇委員どうですか。

委員

去年貴生川小学校に行かせていただきましたが、先生方は教科担任制になると自分ら3人とも学年担任が空くのでその時にいろんな次の教育、運動会、文化祭の打合せの会議が学年単位でもっていますから非常にありがたいですと言っておられました。

そういう点では、先生の視点からのアンケートがこれには載っていません。

先生の視点から見たアンケートで良くなった点や効果が出てない点が入っていると
お良く、子ども、保護者、先生の三つの視点があるとバランスがとれてくると
思います。アンケートが難しいのは気持ちとか慣れなどは、はかれないと思います。

会長

皆さんどうですか、私どもの小中学校教育のあり方審議会の中で、今後の小学校の望ましい教科担任制について何かご意見はございませんか。

今、〇〇委員がおっしゃったように勤務時間内、子どものいる時間の中で教員3人が相談できる時間があることはものすごく有効だと思いますし、現在はほとんどが午後5時以降の会議になっていると思います。

保護者の立場として、甲賀市全体で教科担任制をやって欲しいですか。

委員

できることなら教科担任制をやって欲しいと思いますが、中途半端にしてしまうと、子どもたちが戸惑ってしまうのではないかと思います。でも、5、6年生だったら教科担任制ができるのではないかと思う面もあります。

会長

保護者としてのご意見を述べていただきました。子どもたちは、高学年になると自分が相談できる先生がいるということは、これからの時代の中では大事だと思います。先生の立場からは、子どもたちが常に相談できるように教科担任制を行っていますと話していただくと一番良いと思います。

将来的には担任ではありませんが、「今日こんなことが授業中にあったので」とその教科担任の先生が家庭訪問に来てくれるぐらいのほうが親としてはうれしいのではないかと思います。

学校は、子どもたちを受け入れます、見守っていますという点ではそういうところが普

通になってくるのが良いと思います。〇〇委員、ご意見はありますか。

委員

小学校では今までから入り授業から合同学習をしていたのでそういったスキルがないわけではないので、それもやっぱり大事にしていく点だと思っています。

妻が学校で追跡調査のアンケートをしていますと、やっぱり継続性とか定点観察とか誰かに焦点を絞るとかそういうことが今後必要かなと思います。

例えば、ここでの「楽しいです」は、子どもがワイワイして楽しいというものの質が全然違うので、その辺を一人ひとり聞いていくのは今後大事かなと思います。

やる気にしてもよくわかるということ子どもに問いかけたときに、先生の言っていることは分かるのか、学習の内容が分かるのか一人ひとり違うのでやっぱり一人ひとり追跡調査的なことは、必要かなと思います。

それは逆に言うと、教師の反省材料になってくるということです。

これでいいやという漠然としたことをお互いに持ってしまうと、そこでストップしてしまいます。

成績調査あるいは定点観察することが必要かなと思います。

教科担任制ですが、やっぱり多様というのがキーワードで多様な学びあい多様な人とのふれあい、そして、自分の学びを深めるってところが、大事かなとは思っていますので、教科担任制のとらえ方をみんながもう少し深める必要があるのかなと思います。

会長

保護者的には一定水準の教育を確保してもらおうということと、多様な子どもたちに多様な学びを教師の専門性を生かして、それを発揮させるという点でもものすごく大事でこの甲賀市で今後やってもらえるといいということです。

ただ、お金の面もありますので、常勤のところと非常勤のところでは、やっぱり教科のやれる範囲が限られているので、なるべくその部分を市の予算の中でできれば良いと思います。

委員

こんな例があったんですが、転校して来られた先生が私は6年の教員だが、理科は一回も持ったことがないのでできないというような教員レベルでありながらそういったことをおっしゃる。

教科担任制になって小学校教員の能力がこれは出来ない、これは出来るというような教員がたくさん生まれてくる。それはどうなのかなあという気がしています。

中学校型小学校教員というか、その辺はちょっと分からない。実際できない、やったことがないと言います。

会長

今、八木先生のおっしゃったことはいわゆる英語がそうですよね。小学校教員にいろんな場で外国語活動がなかなか苦手だという先生は沢山います。これから採用されていく学

生は、小学校の英語過程を卒業する学生もいるわけです。

そういう点では、そんなことは言ってられない。〇〇委員、将来的には教科担任制は何年生ぐらいまで甲賀市として広げていけば良いのか。どうですか。

委員

今、5、6年生はたぶん小中一貫でも5年生、6年生、中学1年生で1つのくくりというのが多いと思うので、多分5、6年生かなという気はするのですが、段々と、子どもたちの成長が、精神的な発達というのが、僕らが教員をしている頃よりも多分低年齢化していて、多分精神的な発達は少し前まで6年生だったらと思っているのが、今だったら4年生ぐらいの子が、いろんな思いを持っている。そうすると4、5年生、4年生ぐらいからしても、可能なのかなという気はします。

ただ、多分そうすると、先ほども多くの先生が子どもと関わって、子どもの授業の様子とかいうようなことを共有し合うというのが、非常勤だと教科だけですよね。

僕がもしも非常勤で教科を教えてくれと言われて行ったら、多分授業を教えたら帰ってしまうとなると、なかなかその授業での子どもの様子をその学校全体で共有するというのがしにくい。その辺で今までだったら、すべての担任が、前からずっと学校にいる常勤の者がしていたということになると、ちょっとその授業の中での子どもの様子を、学校で共有また学年で共有するというのがしにくくなるのと違うかなと教科担任制のデメリットをちょっと危惧はしました。

会長

なるほど、ちょっと中学校のようになりますね、授業だけ教えて帰ってしまうのではなく、望ましいのは、今常勤が7校というのがもう少し増えるのが一番良いですよ。どうですか。

委員

今、〇〇委員がおっしゃったように、やっぱりいろんな先生がクラスに関わってくださると、子どももいろんな時にいろんな顔をするし、いろんな課題も出てくると思うのです。

マイナス面でもそれを、気にかかる事があることを教員が共有して共通理解するのはやっぱりさっきおっしゃったように、非常勤の先生が帰られた後とか、その子についての共通の理解を持つこととか、課題があったのに言うのを忘れたというようなことになってはいけないなと思います。

もう1つは、子どもたちはいろんな良い面はもちろん見せますが、いろんなマイナス面が出てきたときに、休み時間とか、今担任は割と教室でずっと居たりしてとにかく子どもの様子がよく見えるのですが、子どもの入れ替えの中で、子どもは大人の目のないところでいろんなマイナスの事も起こるので、そういう面で、空間や空き時間の入れ替わりのそんな時は誰が見るのだろうかと思うことがあります。

今、中学校に行かせてもらうことがあるのですが、中学校は休み時間の5分や10分の間でも、担任の先生以外にもいろんな先生が廊下にいらっしゃってびっくりしたことがあります。今、もう本当にそういう隙間がない。給食の準備をしている間にも、先生がいら

っしやって、それは良いことか悪いことかは別だけれども、見ている目ってというのは必要なので、子どもたちをじっくり見られるとか、引き続き見られるとか、できなかつたら共通に理解の時間が持てるとか、そういうことがすごく小学校は下の学年へ行けば行くほど必要ではないかなと思います。

もう1つ、甲賀市のこれから教科担任制となったときに、さっき非常勤、常時というのが出ましたが、まったくそれに今の学校の規模からすると当てはまらない学校がたくさんありますね。

小さな学校で10数校あったのですが、そのあたりも対応していかないといけない課題として思っていかなければいけないと思います。

会長

これはここだけで人数を決めたら、そうはいかないので、予算もありますので、そうすると3校合わせたら初めて一人分が出てくるということもありますし、現状、やっぱり1人の先生からじっくり見ていただけるというのはやっぱり3年生から4年生。

市としてやっぱり5年生6年生を先ずは充実するような学校で市内の学校で見るという視点で教科担任制を取り入れられた。

ただあまり〇〇委員がおっしやったような教科担任制にすると、授業に来ました、職員室に来ました、そうすると子どもたちが死角の時間に何か悪いことをしたりする。そういうことに子どもたちが慣れないように先生方がすれば良いと思います。

宇治黄檗学園で教室と教室の間にカウンターがあって先生が居られましたね。ああいうのが必要なかなあとと思いますね。

委員

ナースステーションみたいなところですね。

会長

一生懸命そこで先生がノートを採点しておられました。

そういうところもやっぱり大事な部分ではないかなと思います。おっしやるようにあまりやりすぎると給食を食べるのも担任の先生でないほうが良いとか言われたら、これも困ります。

そういう点ではやっぱり望ましい姿は、ある中で何とかして工夫して多くの先生が関わるといふ点では良いのではないかなと思います。

委員

私は、宇治黄檗学園は行っていませんが、今おっしやった廊下に売店のようなコーナーがあってそこに先生がいるという学校を京都市内で見ました。

会長

2人ほどおられました。こういうところをもっと宇治黄檗学園は自慢したら良いのにと思いました。続いてICTの説明をお願いします。

事務局

小学生と中学生の2枚があるかと思いますが、今年度4月に行われました全国学力学習状況調査の中の項目です。

ICTに関わる場所は小中学校ともに5項目ございました。それぞれ上から、国、県、甲賀市の順番になっております。右列の一番上は、左から、「ほぼ毎日」「週に3日以上」「週に1回以上」「月に一回以上」「月に一回未満」を表しています。左に行くほどたくさん使っている、そういうふうに見ていただけたらと思います。

まず小学校ですが、「5年生までに受けた授業で、PC、パソコン、タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」これは、国県ともにそれぞれほぼ毎日、週に3日以上使っているのが半分以上あるというところが市の方がちょっと低くなっていて、約45%になります。

次は、「学校で授業中に自分で調べる場面で、パソコンやタブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか」。国は、約70%、県は約40%で市は、約35%になっていると思います。

三つ目「学校で学級の生徒と意見を交換する場面で使っていますか」という項目です。

これは、タブレットを使い前の画面にみんなの意見が出てきて、それを基に話し合いをしたりする場面がありますが、これはほぼ国県市変わりません。

次に「学校で自分の考えをまとめ発表する場面でPCタブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか」これも発表の1つの手段として、ICT機器を使っています。

例えば自分がタブレット上で回答したものが電子黒板に現れてそれを基に発表したり、また自分でプレゼンテーションを作ったものを皆の前で発表するとか、そういうことです。

市は、国県よりも下回っています。

次は、唯一国や県を上回っているもので、「ICT機器を使うことは勉強の役に立つと思いますか」これは、かなり市が国や県を上回っています。これは、中学校でもそう変わっていません。

本市は、国や県、他市町と比べ頻度こそ少ないものの、子どもたちはICT機器を使いたがっている。役に立つからもっと使いたいと思っているということが言えると思います。

これは、6年生が5年生の時の思い出しながら書いているので、今年度は当初から学校に対して、例えばタブレットの持ち帰りを増やしたり、授業での使用頻度を高めるということを言っていますので、このアンケート結果を受けてさらに4月以降学校教育課として、伝えています。

来年度どのように変わるかも楽しみにしながら、効果的に使うことで、数字が上がっていくと良いと思っております。以上でございます。

会長

ありがとうございます。ご質問はございますか。

委員

タブレットの一人一台配付はいつからですか。

事務局

令和2年度の終わりです。

委員

それは5年生、6年生だけですか。

事務局

今は、一年生から使っています。

会長

〇〇委員どうですか。子どもたちは、タブレットを家に持って帰って使いますか。

委員

私の子どもは、一番上の子は高校生でタブレットを家に持って帰って来ますし、アンケート結果ではタブレットを使いたいというのが小学校も中学校も両方とも高いですが、これが果たして5年後10年後はどうなるのかというとやっぱり下がってくると思います。

目新しいもの、これが2年前に配布のもので、使っていないものを使わずと、やはり子どもたちは使いたいと思います。

ただ授業であまり使われていないように見えるのは、おそらく教職員の方が使い方を知らないのかなと思います。授業の仕方でこの前テレビで放送されていましたが、教科書を電子書籍ですするという話をされていて、パソコンで振り返りをするとすごく時間がかかると話されていました。

教科書の場合は、3ページ戻ったらそこに書いているから見てくださいと話ができる。

パソコンの中でパワーポイントの何ページっていうところまでできれば良いのですが、そこまで追いつけないのが現状なのかなと見ていて思いました。

会長

やがてお子さんが大人になった時にどうですか。

委員

真ん中の子どもがパソコンを2台ほど持っていましたが、それでは能力が低いからと言って今は自分で買ってバージョンアップしています。

会長

先を行っているということですね。〇〇委員は、自分のお子さんにとってこういう端末を使わせることについてはどうですか。

委員

夏休みに持って帰ってきて、自分で全部パスワードも打ったり、「ここで開くんだよ」

と操作を分かっている、授業で使っているのだなと実感できましたし、今も運動会のダンスの練習とかがタブレットに入っていて見て練習したりしています。

「使っているな」と思いますが、タブレットがとても重いので持って帰るのがかわいそうなくらいで、持って帰ったら持って行かないといけないし、タオルに巻いて持って行くのが重たいのが残念だなと思います。タブレットが思ったより大きくてなかなかの重量です。

会長

軽すぎてあんまりいろんなことできないのもいけませんね。

委員

辞典が電子辞書に変わったのは便利ですね。いろいろな辞書がいっぱい入っていて英和辞典など僕も便利だなと思いました。よく使っていましたね。

会長

運動会の練習は、今までだったら全部口頭指示でやっていましたが、それが動画でわかるというのは良いと思います。

かばんの中にパソコンとあと教科書も入れている、その教科書をもう少し大きくしてくれると良いのにね。

委員

教科書は国語と算数だけは毎日持って帰ってきていて、そのほかは持って帰ってこなくていいとなっています。

会長

今の新しい中学校は、教室と教室の間にお互いロッカーがあるのです。教室から出てきたらロッカーがあって使っています。そういう学校もあります。

従来のような今の教室の後ろのロッカーでは駄目かもしれないですね。

委員

ICTに対して、Wi-Fiをもう少し容量を大きくしないと何人もが一度に使うことができないという話を聞きます。小学生程度では大丈夫だと思いますが、高校生ぐらいになったら他のクラスも使うのでWi-Fiの容量が少ないと使用できなくなります。

事務局

だいぶ良くなりましたね。〇〇委員のおっしゃる通り最初は不具合がありましたが、今は大丈夫です。

体育館では、跳び箱の跳び方を自分で見て跳び方を改善したりする授業をされています。

会長

こう見てくると、良い言い方だと甲賀市の児童生徒は、量より質的な部分を大事に考え

ているのだと思います。〇〇委員、今後どうですか。

委員

子どもの PC 活用とデジタル教科書の関係について、何かありますか。

事務局

これから整備されていくと、どんどんデジタル教科書が増えていくのではないかと思います。去年までは、例えば、英語の教科しかありませんでした。

委員

英語が先にデジタル教科書になっていくのですか。

事務局

英語はもうなっています。

委員

もうなっているのですか。後の教科はまだ決まってないのですか。

事務局

後の教科は、これからです。

委員

今後デジタル教科書がもっと他の教科に広がってくると PC の活用また教師の PC を使っている授業の質が上がってくるのかなと思います。つつい今の紙の教科書の方が、僕らの年代や今の教員でも、タブレットより慣れていると思います。紙の教科書だからもっともってデジタル教科書の普及と PC が関わって、授業の質の向上に繋がっていく、今後はそうなるのかなという気がします。

会長

先ほど〇〇委員がおっしゃったように、子どもの学習の足跡が残っているという点では、ものすごく大事ですし、今、〇〇委員がおっしゃったように、何もかもがデジタルっていうのではなしに、アナログもやっぱり大事な部分がございます。

算数の勉強は、図を描いて説明するのをわざわざエクセルで書いていられないですし、鉛筆で書いて、友達にノートに書いたものを見せるというほうが早いということもありますので、すべてがそうでない部分もいかに見極めていくか。先ほどの教科担任制のように算数でも理科でも、どういう時にタブレットを使うのかを見極めてやってあげると、子どもはもっと精選した形で上手な ICT との関わり方ができるのではないかなと思います。〇〇委員の方から何か ICT についてありますか。

委員

先ほど「今年の運動会のダンスの練習は、タブレットを家に持って帰って踊っています」と言っておられたのですが、その日に出来なかったり、雨や暑い中でできなかったり時間が取れない中で、上手に使われているのだなと思いました。

実際分からないことがたくさんあるのですが、子どもたちや孫などを見ていると、テレビのいろいろな番組でも本当に実際の目で虫は見ますし、虫もつかんだりしていますけれど、テレビ、ICT、デジタルの中で示されるものは、すごいなと思いました。実際はカメラの目にはひげがあってブラシがあってと番組で放送されていました。

それを実際のカメラを見た時にカメラのここにブラシがついていて、そういえばこの間テレビで放送されていたと思い出しました。

実際に見るものとテレビ、ICT、デジタルでなければ分からない部分、そういうことを上手に使用されて良さをこれからもっともっとそのような教材が出てくる中で、凄いことだと思っていた。見られないものが見られることをこの間感じましたので、ますます上手に活用されるのだなと思いました。

会長

学習の個別化とか個性化、そういう点では、ものすごくデジタルは有効だと思いますし、今おっしゃったように例えば学年で運動会のダンスの練習、雨で練習ができないので教室でやっていたりしました。

中学校もちょっと前までは先生が YouTube にあげてそれを子どもと親が家で YouTube を見ながら練習をしていました。

ところが、今はもう学校で先生が動画を撮ったらそれを子どもが持って帰って家で練習する。その部分の学習が効率化されているし、保護者に、その学習の子どもたちのしんどさや頑張っているというのが、保護者へも共有できる点では ICT のものすごく便利だと思います。〇〇委員さんどうですか

委員

どのように使っていったら良いのかというのはなかなか、やっぱり先生の質の向上が一番大切だと思いますね。子どもはすぐ習って覚えますし、使い勝手も楽しくやりますからね。ただ教えるほうがそれについていけない。周辺機器の発達という面がすごくあると思います。35歳過ぎたら無理だと言います。周辺機器についていけない。パソコン自体の機能はそこそこ出来ても、周辺機器がいっぱい出てきますから、写真と合成するとかになると周辺機器についていけない。そのあたりが一番難しいところだと思います。

会長

先ほどタブレットが重たいと言っておられた。そういう点で行くと学校の机がパソコンになっていて、ここで打ったら画面が空中に出てくるというのが家でも可能になってくるには、もうわずか10年もかからない間になるのではないかと思います。携帯電話は、以前は大きいのを持っていたのにわずか20年の間にカラーになってまた動画も撮れて見ることができるようになっていっているのですから、10年の間に変わっていくのではないかと思います。

そういう点でみなさんがおっしゃっていただいたように、ICTについては、やっぱりデメリットよりもメリットが多い。デメリットは重いか不具合とか、運営上の部分でもありますけどやっぱり子どもの個別化、個性化という面ではやっぱり大事だと思います。

次に小中一貫教育について資料の説明をお願いします。

事務局

小中一貫教育についてですが、資料は、6月7日の議事概要になります。小中一貫教育について、学校教育課が説明をさせていただいた部分を抜粋したものです。

今回は、説明を割愛させていただきます。資料を見ていただきながら、意見交換をお願いしたいと考えております。以上でございます。

会長

皆さんと思い出していこうと思いますが、大事な部分は、上げておられる右側2ページ目のところに、「一貫教育の共有」、その上に「接続」、「交流」、この3つの部分のことを特に大事にされているというところですね。甲賀市が今までやっていたのは連携教育ですね。小中連携教育を小中一貫教育に移行していくということです。

やっぱりその辺の部分について、子どもも先生も保護者も、小中連携教育と小中一貫教育はどう違うのかというところの部分が、しっかりしてないといけないと思います。2ページ目の下には、分かったとか出来たとか教育の教職員の指導方法の工夫とか改善が同じように、小学校の勉強のやり方で中学校も行けるような小中一貫教育の内容の部分が話しされていたと思います。

小中一貫の部分は、同じことが1つの流れで連なっていく点と授業の狙いの部分について一貫性がないといけないと思います。

そこには分かるとか出来るということが書いてあると思いますし、学習のやり方が大きく違うようではいけないので、そういうところもいわゆる教職員の皆さんが、研究会をしながらも校区別にやっておられるというところもあろうかと思います。

事務局で小中一貫教育と小中連携教育の補足などはありますか。

事務局

昨年、研究指定をいただき、市内の1つの小学校と同一中学校区の中学校一校ずつが連携をしながら教科を理科に絞って、小中の接続という意味で研究をさせていただいた機会がありました。

その時は、小中一貫という文言は出ていなかったのですが、行っている内容は小中一貫の中身でした。小学校の教員はどうしても6年間で物事を考えますし、中学校は3年間で考えます。例えば、私は理科が専門なので理科を例に挙げますと、小学校で4年間3年生から6年生まで4年間理科を教えますが、よく似た単元が中学校で出てきます。

当たり前ですが系統がありますので、それを小学校の教員は知っていて、小学校で教えるのか、知らずに教えるのかで大きく教え方も変わってくる。

中学校も同じことで、それを去年、2年間の研究指定で小学校の教員と中学校の教員がそれぞれ小学校と中学校で研究事業をした指導案を検討します。

そこに大きな発見なり気づきがありました。「小学校の教員は中学校でもう一回小学校の内容をバージョンアップして教えるのだな。ということはそこに繋がるように教えないといけないな」中学校の教員は、「小学校でもここまでやっていたのか。それならまた同じことを2回繰り返すことは無駄だな」理科は、3年生以上ですから4足す3で7年間、他の教科は9年間ですから、その期間で教育課程を見ていくことが非常に大事だと気づきがありました。

これが小中一貫教育のスタートという意味でしょうか。それが同じ施設内でやっていくか、別々の離れた小・中学校の物理的な場所でやっていくかの違いはありますが、教員の意識、教え方が大事になってくるのが小中一貫教育ではないと思っております。

会長

今おっしゃっていた中で、要はこういう事は継続して子どもたちにさせよう、ここは新たな学習活動でしっかりと協議の中で、小中学校の先生も把握して教えるところを上手にもっと書けたら良いと思います。

今おっしゃったように、そのためにこんなことをやり始めていますよということと言えると良いと思うのです。連携から一貫という点で連携しているという点ではやっぱりその小学校中学校の先生が関わると、一緒に話をするというところで言えば何についてしゃべるのか。結局こういう行動を起こしておこうと思っているということと言えると良いと思います。今おっしゃったように、同じことを2回やる必要はないし、やっぱり同じことを聞いても違う学習活動をさせるのか、または違うことで多様化として応用させるのかという話し合い、理科以外はないのですか。

事務局

算数も例が上がっていますし、社会科もそうです。歴史的な内容や公民も小学校の内容がベースにある上で中学校の内容があります。だから多分に重複している部分がありますので、知っていて重複して教えるのか、知らずにもう一回教えるのかは大きな問題だと思います。

会長

ただ、土山学のような総合的な勉強やキャリア教育、例えば中学校で職場体験に行きますが、小学校でもよく似たことをやっているんです。実は、5年生で一日見学に行くとか、例えば平和堂を見に行くなどしている。そこで平和堂の人にお話してもらおうとか、何か今、甲賀市が狙っている土山学区のような部分についても小学校と同じことを中学校でもやっている。それがバージョンアップで小中一貫教育として地域学について、考えられるということです。

委員

今のところの質問ですが、小学校で教えている理科で、リトマス試験紙が何色になるとか、中学校では子どもたちが分かっていることを前提に授業をするのでしょうか。

事務局

いろんなケースはあると思います。

ただ、一番危惧するのは、小学校でどこまで教えているかということをしちんと中学校の先生が理解をされた上でする場合と、これをやってないだろうと思って1から教える場合だとやっぱりその教え方は違うと思います。

そういう意味では、小学校と中学校の教育課程をそれぞれ通しで教員が共有するということがどの教科も必要ではないかと思ひますし、それが小中一貫教育になっていくと思ひます。

委員

今の件で、例えば、小学校の時に教えてもらって、「これ知ってる」という子どもは自信になります。授業を聞いてなくて知らない、覚えてないという子どもはそれを教えてもらってプラスになります。そういうことを教員の方が教えているのを知っているのは良いと思ひますが、既に教えている内容だから端折るのはあまり良くないと思ひます。やはり教える項目は、中学校であって、知っている子どもも知らない子どもにもお教えていただければ良いと思ひます。

会長

今までに子どもたちが学習した経験や知識をよりどころに次の勉強する点はものすごく大事になってくると思ひています。

委員

自信を持ってできることは、すごく大事だと思ひます。

会長

土山小学校を見学させてもらったときに、校長先生がそれぞれの学年に目指す土山学の狙いがあるとおっしゃっていました。その狙いを中学校の先生が、中1ではどういった内容が土山学の狙いかを見て考えることが小中一貫教育だと思ひます。土山中学校の現状はどうですか。

事務局

以前、連携部会がありましたので、情報交換は必要に応じて行っていますが、どこまで細かい部分までその情報が共有されていたかは極々限られた時間でやっている作業でもありますので、例えば1年の期間で交流していかないとなかなか情報が密には交流できにくいことがあります。

土山中学校の現状は、私もはっきりお答えできませんが、小中一貫教育は、大きく旗を上げながら年間の交流計画をしっかりと立てて、どこを交流していくのかどこを共有していくのかを明確にしていかないとうまく働いていかないと考へられると思ひます。

会長

勉強の中で、数学や理科の勉強は、次はこういうことを勉強したいということは全然子どもは想像もつきません。

地域学は、こんなことを知りたいなと思うのは子どもたちでもすぐ予想もできるし、土山小学校と土山中学校が同じように目指すのは、どの学年も子どもたちが自分の表現力を高めようとしています。それは中学1年生でも中学3年生でも同じです。ただ、何を表現するのは、小学校1年生と中学校3年生では違いますよとはっきりして地域学をやるのが、ものすごく大事だと思います。土山小学校の校長先生がこの間もあれだけ熱を入れておられました。地域学を中学校の校長先生が熱い思いを持ってできるのかということところです。特に小中一貫教育を進めることは、普通の教科よりも地域学の中でそういう連携を持ってもらったほうが良いのではないかなと思います。〇〇委員は子どもたちに自分の地域について地域学として勉強させることについてはどう思われますか。

委員

調べたい子は調べるかもしれないですが、あんまり興味がない子は授業から入っていく場合もあると思うし、授業でちょっと知ったからもっと知りたいと思う子もいると思います。大人になってしゃべると甲賀市にずっと居たいという友達も多いし、そういうのは急にそういう風にはならないと思うので小さい頃から甲賀市に居て、大人になって地域への思いに繋がっていくと思いますので、子どもたちが自分の住んでいるところを知ることとは大事だと思います。

会長

〇〇委員がおっしゃったように自分の住んでいるところに愛着を持つためには、先ずはこういうことを勉強してから、次はこういうことを勉強して、その次はという風に計画性が重要です。〇〇委員いかがですか。

委員

私の生まれは日野です。甲賀市には甲賀市の良いところがあるし、隣の町もまた良いところがあります。子どもたちが自分の生まれ育ったところを勉強するのは小学校で興味を持たせて、こういう順序でないと中学校に行くとそこまで興味を持たないのかもしれませんが、自分の住んでいる地域の勉強をすることは段階を踏まえてだんだん興味深くなっていくのが良いのかもしれませんが。やっぱり、水口だけでなく、甲賀市には、土山、甲賀、甲南、信楽もありますので徐々に広げて、甲賀市の全部を勉強していくのも良いかもしれません。

会長

そういうところの計画的、系統的という点では小中一貫教育は、ものすごく大事だなと思います。

副会長

私は、連携と一貫の違いですが、教育課程を接続、しっかりと小中一貫教育の場合は教

育課程が9年間を見通して作られているかどうかだと思います。今おっしゃっていただいた例えば、算数、数学、理科でしたら教科書があるので何を学習するかは、教員同士の細かい打ち合わせは必要だと思うのですが、教科書や指導書、学習指導要領を見れば分かるのですが、この地域学やキャリア教育、総合学習の時間に設けられる地域学は、カリキュラムは地域に任されていますから、それこそ小中一貫教育としてカリキュラムの上にあることは子どもの頃からすごく地域に愛着を持つ子どもたちを育てていく上できちんと小中学校がつながっていくことはすごく大事だと改めてすごく感じます。

会長

宇治黄檗学園に伺った時に各学年の冊子があったと思います。ああいうのがやっぱり甲賀市にもあって良いのではないかと思います。この学年にはこういうことを勉強して、こういうことを習える。

これは現場からその音頭をとってやっていくのかということとなかなか現場は校長先生次第でなかなかできないでしょう。そういう点では、教育委員会が音頭をとって、学校の先生と話しをして一年生はここまで地域学をやりましょうというものをつくり上げると、それがきちんと段々浸透してくると思います。これは学校教育課かなと思います。

私どものこのあり方審議会で考えるのは、この教科担任制と ICT と小中一貫教育地域学について、今後の見通しとしては、これをどういうことを大事にして、今後これをこの辺りをもっと大事にしていけないといけないのではないかという言葉を入れて、まとめ上げられたらいいなと思っています。

去年の提言と同じように提言の前に「はじめに」がございますので、「はじめに」には今年の第1回目の会議の中で西村教育長がおっしゃったようにこういうことを大事にしているということも織り交ぜて「はじめに」を作成し、それから提言は、今後の教科担任制のどういうところを大事にしてほしいか、そのためにはこういう取り組みが必要ではないかやこのようなやり方が必要ではないかという様なことを提言し、その根拠としては、子どものアンケート結果や保護者の思いを織り交ぜながら提言ができたと思います。

委員

今、お聞きしていて自分たちが分かっていないなと思ったところがありました。小学校の地域の学習は分かるのですが、甲賀市内の中学校で行われている地域学の中身や方法が全く分かりません。例えば、私たちが生活していて分かるのは職場体験とか、すごく身近にあって毎年されていることは分かります。次回、もし出来ましたら甲賀市内の中学校における地域学の関わりや繋がりでどういうことをされているのかということをお教えしてもらえるとありがたいです。

委員

中学校では体験は本当に無いですね。

会長

職場体験はありますが。

委員

職場体験だけですね。小学校はいろいろありました。

会長

あの職場体験も一週間やっているのは、全国で滋賀県と兵庫県だけです、大阪は1日だけです。市によっては、土日を挟んで木曜日から始めています。土日を休んで家の人と一緒にお店を見に行行って残りの3日間頑張ろうということを滋賀県では中学校の体験でやっているようです。他よろしいでしょうか。

委員

小中一貫で連携と共有ができましたが、今までからも幼小連携が使われてきて、それぞれ幼稚園と保育園ですとアプローチプログラム等を独自で作って、接続の部分で繋がってなかったのでもうまいかなかったと思っています。

そういうことをちょっと反省しながら連携する、連携から共有にとどっちの思いもあるのが繋がらないということで、コーディネーターがいるのかなということと、最終的に教育課程が小学校から中学校まで一本である。それをどの教員も日々それに目を通して常に持っているということが必要で、自分の学年が9年間でどの位置かの意識を持つ必要があると思います。例えば、さっきおっしゃった小学校の校長先生、中学校の校長先生の2人がいる学校と義務教育学校のように1人の校長先生というのでは、育てる子どもの姿が一本化されていない部分があると思いますので、先生方の声も必要ですが、その子をどうするのか。リーダーのところをどうするかということも大きなことかと思っています。

宇治黄檗学園は承知されておられると思うんですが、義務教育学校は、校長先生が1人で子どもの姿が一本化しているのが具現化していると思っています。

滋賀県内の小中連携の学校ですが、長浜市では、例えば5、6年生が週2回は中学校に行行って授業を受けています。そういうことも必要かなと思っています。

地域学は、小中連携、共有のイメージを進めて行く起爆になると思いますのでいいお話が出てきたなと思いました。

会長

〇〇委員がおっしゃったように、ここではこういうことが課題ですと課題を述べるよりも、こういう取り組みをすることで、こんな風に子どもが変わっていきますよというそういう提案が次回皆さんのお知恵を借りて、考えられたらいいなというふうに思っています。

この議論を通して学校再編に反対される立場の方もおられますし、理解していただく上でもやっぱり望ましい姿、望ましいあり方や取り組みをご提案できるような形になれば良いいかなと思っていますのでよろしくお願いします。

これで本日の議題の終了となりますけれども、何か他にございますか。

なければ次回の会議日程の確認をお願いしたいと思います。

事務局

はい。ありがとうございます。

次回の会議日程でございますが、10月24日月曜日です。午後2時半からこの教育委員会室で開催させていただきたいと思います。

委員の皆さんには、事前に年間のスケジュールということで、ご案内させていただいているかと思いますが予定では、あと残り3回です。

次回10月に引き続き、この四つのテーマを議論いただき、その後、提言書の中身について、お話させていただきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

会長

それでは次回は10月24日月曜日2時半からこの教育委員会室にて開催させていただきます。それではよろしくお願いいたします。

事務局

はい、どうもありがとうございました。長時間にわたりましてご協議いただきましてありがとうございます。それでは最後に副会長より、閉会のご挨拶を賜りたいと思います。よろしくお願いいたします。

4. 閉会あいさつ

副会長

本日は、今までの話し合いの中の教科担任制、それからICT、小中一貫教育についていろいろとさらに議論が深められたと思います。特に私自身はこの教科担任制や貴生川小学校のアンケートを基にお話をいただいたのですけれども、やはり実際に先進的な取り組みをされている、それを子どもたちや保護者の言葉で、具体的に成果や課題がアンケートの形で見えてくるというのはとても大切なことだなとも改めて感じましたし、また、こうした取り組みをされている甲賀市さんの素晴らしい取り組みをまた私自身すごく感じさせていただきました。次回、小中学校 教育についてのアンケート調査結果が出てくると伺っておりますので、このアンケート結果も踏まえながら、この提言の中に入れていけたら良いなと感じておりますし、子どもたちにとっての教育環境という視点からみていけたらと感じさせていただきました。本日はいろいろとご意見をいただきまして、ありがとうございました。

事務局

ではこれもちまして第8回甲賀市小中学校教育のあり方審議会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。